

いきいき  
ライフ  
に乾杯！

信念は「人のために尽くす」

皮革工芸家  
わいわい絆  
とみた ひでこ  
富田 秀子さん (81歳)



らいただいた洋服や食器を店頭で販売し、その売り上げを、足利で東北復興支援を行っている団体に寄付しています。以前には、鏝阿寺国宝記念バッチャ、渡良瀬橋をモチーフにした缶バッジを観光みやげとして作って販売し、その売り上げの一部を東北支援に充てたこともありました。

これからは

**織** 姫神社の登り口近くで、革製品を制作しながら、「わいわい絆」という東北支援のお店を営まれている富田さんにお話を伺いました。

わいわい絆の由来について

私の母が80歳の時に、皆さんのお茶の間となるような店を出して欲しいと言われ、「わいわい」という名の店を出したのがきっかけです。そして、東日本大震災が発生したとき、なんとか支援したいと思い、同じ思いを持つ人たちと相談し、絆という言葉を足しました。

どのような支援をしていますか？

復興支援に賛同する友人・知人が

幸い今とても健康です。革のプロジェクトやお財布など大好きな革製品を作りながら、自身のライフワークとしてこれからもずっと東北支援をしていきたいと思っています。それと、足利がもつともっと元気になるように、観光みやげなどを作って足利を盛り上げていきたいです。

幅広い人脈と、エネルギーな行動力を生かし、足利市の活性化と東北支援のために、富田さんは休むことなく活動しています。東日本大震災から6年半が経過しました。富田さんのような方々の努力にもかかわらず、その復興は道半ばであります。一日も早い復興を心から願わずにいられません。

(M・H)

女性の活躍推進に  
取り組む事業所紹介

社会福祉法人 美明会  
みめいかい



平成29年7月4日取材  
女性の活躍推進の取組を前進させるため「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が施行されました。従業員300人以下は努力義務となっておりますが、美明会は従業員約160人で事業主行動計画を策定し、女性活躍に取り組んでいます。

事業主行動計画を策定した経緯

県が実施した「事業主行動計画サポート事業」に応募したことがきっかけです。

従業員の7割が女性ですが、家事や育児との両立への負担や勤務時間の問題もあり、管理職をめざす女性が少ないことなどが課題で、女性課

長を1人以上増加するという目標にしました。また、男性が育児参加しやすい職場環境の整備をすることで、男女ともに働きやすい環境づくりをしたいと考え、男性の育児休暇制度を導入しました。

施設内の女性社員の状況

従業員約160名 女性7割 管理職7名中2名女性(部長1、課長1) 策定後、平成29年4月から7名中3名(部長1、課長2)が女性管理職になり、1名増加しました。

※本市では、平成29年度中に、市全体の推進計画を策定する予定です。

\*\*\* 編集後記 \*\*\*

今回、初めて「赤ちゃん先生」の授業に取材で参加しました。まだ、ほんの数年前まで元“赤ちゃん”だった小学生の児童たちが、愛おしそうに赤ちゃんに触れ合い、お母さんたちの話を真剣に聞く姿を見て、これこそがまさに“生きた授業”なのだろうと実感しました。

毎日のように命を傷つける残念なニュースが報道されていますが、このような授業がきっかけとなって、お互いが命の尊さを学び、嫌なニュースがひとつでも少なくなることを期待させてくれる、そんなプログラムだったと思いました。(H・G)